

神、創造者、靈魂などという言葉は、なぜ放送を禁止されているのか？

——神の敵の策略に乗ってはならない

Greatchain

July 25, 2024

ユーチューブのこの「神の言葉」は、これまでに私が聞いたうちで最も納得できるものなので、ここで取り上げることにした。(Today is the 22nd of July, This is very serious, God wants you to open it immediately)

これを読んだ同じ日に見た夢は明らかにつながっている。しかしそれを解くのに時間がかかったので、このように遅れた。

私が大学にいる間、多くの人々に特別に影響を受けたが、彼らが定年となってほぼ死去されるまで、特別長く付き合っていた教授の方々が、少なくとも2人いる。ここで述べるもう一人の教授は、私が講義を聞かなくなると同時に縁が切れた。そして現在は故人となられ、20年はたっている。しかしこの方が、私と心の底で深く繋がっていたことを、この夢で知った。その夢とは、彼が私の寝床に突然入ってきて、互いに向き合っているが、ほとんど何も話さない。私はあまり気持ちがいいので、うとうと寝てしまい、「ああ今寝てしまいました、いや失礼しました」と謝った——それだけの夢である。

これには経緯がある。何十年前も前、ある洋書屋で二人がばったり出会ったとき、この教授は笑いながら何かを**はにかむ**様子だった。私は一瞬、ひょっとして私が、都合の悪い場面でも目撃したのかと思ったが、明かにそうではなかった。それは私が最近、はっと気づいたこの瞬間まで謎だったが、やっとそれが解けたと思った。それは彼の言葉でいえば、「もう君との間の師弟関係は卒業しよう」ということだった。それは学問上のつながりというより、人間的な人格のつながりだった。実は、この教授にそう言われるだけの、私の論文や私の態度全体があったと思われるが、それは言わないことにしよう。

私が感動するのは、我々の間柄がそれほど深くもないのに、おそらく無意識の中で、相互間の敬愛の深さが、並大抵のものでなかったことである。

実はこのユーチューブの宗教指導者の、私への態度も、それと同じようなところがあった。簡単に言えば、「やっとなら話を聞いて、話し合える相手に出会った、君となら話し合える」ということである。とは言っても彼は、私に対し甘いわけではない。かなり厳しい批判をしてくる。しかし基本的に私を認めていた。

彼が言うには、この宗教の世界は、本来、私や君のような者が住む、高い世界として創られているのであって、我々に対立する下の者たちの住む世界ではないのだ、と言った。これを言い出されたとき私は、「それは利己的で逃避主義ではないか、現実にはその低い世界に、喧嘩や戦争をする者たちがいて、我々はそれと戦わねばならないのではないか」と密かに思った。しかしそれは、一番あとでたっぷり語られることになる最重要課題だった。

彼は「本来、十字架は必要のないものだったのだ」と言い、それは最低の世界に住む者を強制的に教育する手段だったのだと言った。「最悪の事態を考えて計画するなど、やるべきことではないのだ」と言う。

「あなたは、そのようなものに参加することに、合意しはならない。」(ここから私の説明だが)人を殺している者たちをやめさせたり、やめさせる計画をしたりするのを、尊い仕事と考えてはならない——これは全くその通りであろう。自己を高め、霊的な世界を開く本来の仕事と、死体処理の仕事を世界の人々は、同じ尊い仕事だと考えている。

これが人間を、ただの発達した機械としか考えない、我々の文明の末路である。この世界の人間たちは、死体処理の仕事は、より大規模な同じ仕事によって、片づけるより仕方がないと思っている。こういうことが馬鹿げていることを、彼らは数十年をかけて知ってきた。にもかかわらず、彼らは暴力や武力がなければ何も解決しないと考えている。これはもちろん、彼らが知恵がないからではなく、そのように考えるように強制されており、これに刃向かうのが怖いからである。

このユーチューブの宗教指導者と私が一致するのは、心の世界の繊細で精細で独創的な、しかし曖昧ではない、明瞭な弁別である。したがって彼の文章は詩人の言葉のように聞こえる。

これに対して、私の名前を検索してわかる、私に対して浴びせられる悪口は、「インテリジェント・デザインに騙された馬鹿な男」というものである。IDも、微妙で正確な言葉遣いが勝負の要となっている。たとえば、その証明方法は従来の「神の存在証明」でなく、神の存在を「指し示す」point toものである。それは同じものではない。またそれは、「神仮説」God hypothesis と呼ばれ、事実の主張ではない。またそれを証明する、万全の精妙な言葉が選ばれている：——「還元不能の複雑性」Irreducible Complexity、「宇宙的微調整」

Cosmic Fine-Tuning、ダーウィン自身の認めた、ダーウィン説に矛盾する「カンブリア紀爆発」など。

反対者はこういったすべてを、馬鹿げた説だと主張している。なぜか？ それは、ダーウィン説がウソであることが露見したら非常に困る、「人類の敵ども」がいて、卑怯者どもが彼らに阿るためである。彼らの論法は、精妙なメスによって分析しなければならないことを、ナタでぶった切るようなもので、こういうことをやっていけば、しまいには人間が人間をぶった切るようになる。わが国の「文化」は現在、そのような様相を呈している。

実は私自身が書いた論文で、ある作家の、非常に精妙で繊細な言葉遣いのあやの研究（これは世界的に認められた）も、その類いのものだった。これを理解できない人もいたが、先に述べた教授の同志はこれを高く評価してくれ、深い敬愛の関係に発展したことは、先に述べた通りである。

また私は前に、「私は創造者である神の無念を晴らすために生きている」と言ったが、この言葉は、正確にこの通りでなければならない。これ以外の言葉に言い換えることはできない——そう私は言った。

私はこの我々の「文化」を担当する方々に申し上げたい：——「卑劣」という言葉を辞書に持たない人々や国々と、付き合ってはならない。